根道外遺跡(範囲確認調査)

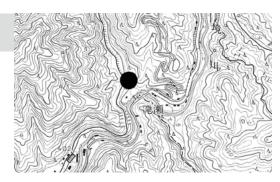
所 在 地 北設楽郡設楽町八橋字根道外 (北緯35度7分15秒 東経137度34分43秒)

調査理由 設楽ダム

調査期間 平成28年11月

調査面積 172㎡

担 当 者 酒井俊彦・永井邦仁



調査地点(1/2.5万「田口」)

調査の経過

調査は、国土交通省による設楽ダム建設事業関連埋蔵文化財範囲確認調査として、愛知 県教育委員会を通じた委託を受けて平成28年11月に行った。調査対象地の現況は、耕作 地として開墾された山林で、山側にシシ垣が廻っている。遺跡の標高は422~432mである。

立地と環境

遺跡は、八橋地区の境川支流であるタコウズ川左岸に位置する。長さ約80m幅約40mの狭小な河岸段丘があり、南北端と東側が山地斜面によって囲まれている。段丘面の南端には、山地斜面から続く埋没谷地形がタコウズ川に向かって抜けており、その部分や窪地となっている。基本的な地層は黒褐色シルトの耕作土の下に褐色系粘質シルトの基盤層となるが、後述するように、削平を免れた遺物包含層も一部で確認されている。

調査の概要

調査は、TT001~085・087(086は欠番)の1m×2mのトレンチが86か所設定された。

TT024では、縄文時代中期末の土器と石器が竪穴建物跡と思われる遺構の埋土から出土している。また TT087で土坑状の遺構が検出され、その検出面などから縄文土器が出土している。これ以外に、TT010・13・18・58・60・62・63で、縄文土器が出土する包含層、もしくはそれいに類する土層が確認されている。なお、縄文時代以外のものとしてはTT047などで不整形な遺構が検出され、TT040からは近世後半の陶器が出土している。また、概ねTT010からTT074をつなぐ直線から山側はもと斜面地だったところを平場化したもので、出土遺物は近世後半以降の陶器小片がTT049で出土している。一方タコウズ川近くのTT016からTT051では河川堆積による砂礫層が検出されている。

以上の調査結果から、TT024とその付近、TT060とその付近で縄文時代中期と考えられる遺構と遺物の分布が想定される。なお、両者の間には遺構・遺物の空白がみられるが、ここはタコウズ川へ張り出した小尾根に相当し、耕作地化によって削平を受けているものと思われる。聞き取りによれば、本遺跡における開墾は第二次世界大戦後のことで、シシ垣が築造されたのもその頃と考えられる。

(永井邦仁)



TT024 遺構検出状況(南西から)



シシ垣と TT010 (東から)

